

水害経験と備える知恵（高島市今津町浜分）



水害記録

昭和28年台風13号
避難場所まで歩いて逃げた。

その他水害記録

昭和28年以降に水害はない。
大水の後は、琵琶湖にたくさんの井堰に使った木が流れて来ていた。やが一面に水があつて、堤防を越えそうなくらいだったが、急に水位が下がった（一尺五寸ほど）。すぐに、「井ノ口が切れた」と知らせが来た。次は、家に急いで帰る。井ノ口で切れると、家が水につかる。「川流れひらい」に行つてこい。といわれ、琵琶湖に井堰に使われた木や丸太などを取りにいった。
拾つた木材は、風呂やご飯の煮炊きに使つた。（一年使つても、まだあるくらいの量）

水害に備える知恵

北側は川から距離があり、水路がないため、水がつかない。浜分でも家を高く上げているところは、水がつかない。箱館山の横に滝が見えると、避難した。浜分は漁師の町なので、大雨の情報をラジオで聞いて、危険かどうかを判断していた。消防団と区長さんが、警戒をする。かさ、たみのを着て、橋のたもとで立って、川を見ていた。集会場では、消防団のために、炊き出しをした。二日ほど、川の警備をした。木や竹で作つた井堰がいくつもあつた。井堰は、木や竹で、三角をつくり、底の部分に土嚢を置く。大水になると、琵琶湖に水が流れず、浜分に水が溜まつてくる。

勝林寺
避難所。
勝林寺の鐘が鳴ると、避難所に逃げる合図だった。一時しのぎに勝林寺に避難する。避難指示は区長がする。

- ### 【凡例】
- 破堤・越水、浸水が発生した箇所
 - 水害に備える知恵を確認できる場所
 - 水害記録の詳細情報
 - 水害に備える知恵の詳細情報
 - 浸水しやすい範囲
 - はん蓋水の流れ

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 令元情複、第422号)
第三者がさらに複製する場合には、国土地理院長の承認を得なければならない。